

令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	木曽ペインティングス Vol.6「僕らの美術室」
事業主体 (連絡先)	木曽ペインティングス実行委員会 TEL : 050-3700-5277
事業区分	(3)教育、文化の振興 (8)その他地域の元気を生み出す地域づくり
事業タイプ	ソフト
総事業費	2,785,555 円 (うち支援金 : 2,021,000 円)

事業内容

独特の文化や暮らしを育み伝承してきた木曽地域を、芸術家の視点を介入させて芸術祭やイベントを住民と協働で開催した。また子ども達が木曽や未来に興味や関心を持って想像する力が身につくよう願い課外授業を多数実施した。地域にアーティストや鑑賞者を大勢呼び込み賑わいの場を作り、地域への愛着と誇りを深められるよう、木曽がロケ地となった映画鑑賞会を開催した。そして展示鑑賞会や映画上映後のトークを通じて、作品に込められたメッセージを自分なりに読み解く楽しみを伝えられた。

- ・美術室開設 10/1-11/7 巴庵(宮ノ越) / 課外授業 (WS) 5/14-11/4 の間に 18 回実施 巴庵など 8 会場 参加者 333 名
- ・オープニングイベント【共催：義仲館】10/23 巴庵・義仲館・宮ノ越公民館 (出店 5 店/ 公演・参加者 53 名/ 観客 150 名)
- ・芸術祭「僕らの美術室」10/23-11/7 3 町村 14 会場で開催 (参加者合計 38 名/ 内訳：アーティスト 32 名・高校生 6 名) (鑑賞者 1,416 名)
- ・アーティストインレジデンス 藤屋 5/14-11/12 の間 (58 名/123 泊) 常八 6/2-11/6 の間 (8 名/45 泊)
- ・「リング・ワンダリング」上映会とトーク開催【共催：木曽文化公園】11/3 木曽文化公園ホール (入場料¥500 / 鑑賞者数 160 名)

事業効果

- ①東京で鑑賞するものに劣らないクオリティで、且つ地域に根差した展覧会を木曽で開催し、他地域から大勢の来場者が訪れ賑わいを作った。
- ②アーティストが専門技術を生かしたワークショップを住民や子ども達に 18 回実施。木曽の 200 年後を想像してディスカッションに熱が入ったり、ドイツ人アーティストとの言葉の壁は子ども達にとってはむしろ興味の対象となり熱心にコミュニケーションを取る様子が見られた。
- ③芸術祭で空き家を解放し、移住促進のみではなく空き家をアトリエや倉庫に活用しながら都会と木曽の 2 拠点生活等の提案をしてきた。木曽ペインティングスがきっかけで R4 年 4 月木曽に移住した者は現在木柀製作の仕事を行っている。パンフレットに“売り物件”と記載した空き家は R4 年の年末に売却が決まった。
- ④アーティストの視点を介入させて木曽の事を見聞きすることで住民に新たな発見があった。更に鑑賞会やトークイベントで詳しく話を聞く機会を作る事でより発見・再発見、更に知ろうとする好奇心を引き出した。

今後の取り組み

R5 年度は、岩熊力也/ 奥野宏/ 中條聡の 3 名が中心となり木曽ペインティングスから派生した別働のアート・コレクティブ GR19 (galaxy route nineteen) として大桑村で展覧会・ファッションショー・ワークショップを開催し引き続き地域住民とアーティストの交流・協働で地域を盛り上げたい。木曽ペインティングスとしてはギャラリーカフェ SOMA で「義家麻美個展」「木村真由美個展」等複数の企画展を開催予定。また藤屋は R4 年 11 月に木祖村と共同使用が決定し、今後もレジデンススタジオとして多くのアーティストを受け入れ空き家活用や移住促進に繋げたい。藤屋ギャラリーの稼働率を増やし、住民が楽しむ為の日常使いと並行しながら、村民が日常的にアートに触れる機会を増やしたい。



【オープニングレセプション】

【目標・ねらい】

- ①木曽で上質な展覧会を開催
- ②美術教育充実と交流で想像力の飛躍
- ③空き家活用の提案と移住促進
- ④地域独特の芸術の発見と知る喜び

※自己評価【A】

【理由】

- ・木曽への移住者と他所から参加するアーティスト、そして住民の協働で芸術祭やイベントを開催できた。
- ・移住促進や空き家売却に貢献できた。
- ・専門技術や国際交流など子どもの好奇心を刺激し環境問題や地元への関心を促せた。
- ・鑑賞者数は目標に届かなかったが他事業は予定を上回る集客があった。
- ・展覧会や映画上映会だけに留まらず、感想を述べたり作者の話を聞いたりする場を作り作品や思いを更に知る機会を作った。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
 「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた
 「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある